

白銀の「上州武尊山」(個人山行)

(報告) F J

◎山行期日：2020年1月26日

◎メンバー：F T (L)、TM、F J

前年の12/21冬山・雪山シリーズ第2回に登る予定だった上州武尊山が予定変更で赤城山に登ったため、仕切り直して上州武尊山に登ろう！ということに。天気予報は直前で良くなり、予報通り澄み切った青空の下、快適な雪山山行ができた。

八王子からF Tさんの新しいエブリィワゴンに同乗させてもらい、順調に登山口の川場スキー場まで向かう。スキー場の駐車場が混雑のため、離れの駐車場からリフトまでシャトルバスで移動する羽目になり、リフト待ちも発生したせいか、ゲレンデトップに着いたのが10:30頃で予定より1時間程の遅れ。リフト最終15:45に間に合うだろうか・・・。



初の雪山高山にニヤける筆者



剣ヶ峰山までの道程

天気は素晴らしく、穏やかで一面白銀の世界だ。これから進む道程にはトレースがくっきりしており、アイゼンで十分な感じだ。まずは剣ヶ峰山を目指す。このピークは標高2020mで西暦年と合致する。3年前、同様に雲取山が標高2017mのため登頂する人が多かったとか。出だしから結構な勾配があったためここで体が暖まった。勾配が緩くなったところで剣ヶ峰山が視界に入る。

シリウスオクションで譲って貰ったピッケルを今山行で初めて使う。F Tさんから簡単に手解きを受け、色々試してみた。購入した12本爪アイゼンも今山行が初だ。これまで6本爪アイゼンしか使ったことがないためか、12本爪の効きは凄い。ただ、雪山机上講習で教わった様に爪が長いので、その分足を上げないと躓きそうになるのを実感した。

さて、剣ヶ峰山に到着。標識が雪に埋もれて「2020m」の文字を探したが見つからず。せっかく記念写真を撮ろうと思ったのに残念だ。無雪期の写真を見たら、標高文字は標識の縦柱の下の方に書いてある。まあ、致し方ないか。



剣ヶ峰山にて
(TMさん、FTさん)



剣ヶ峰山にて
(筆者、FTさん)

剣ヶ峰山を下る区間は、急勾配のため気を引き締めて下る。12歩爪アイゼンの効きのお蔭で難なく下ることができた。剣ヶ峰山を越えると、雪原が広がり大小のアップダウンを進んでいく。山頂まではまだまだ時間がかかりそうだ。暫く進むとFTさんから「時間は何時？」と問われ確認すると、11:45だった。山頂への往復を考えると微妙な時間ではある。FTさんの判断で、この先はTMさんと筆者で山頂に向かい13:30までには下山を開始する事とし、FTさんは適宜戻ることになった。

標高が上がるにつれて徐々に風が強くなってきた。余裕を持って山頂で景色を見て、グレンデトップに戻ろうと思い、気持ちペースを上げて進む。休憩場所で来た道を振り返ると剣ヶ峰山が見えた。こちらからのアングルの方が、恰好いい。槍ヶ岳からスケール感を小さくした感じでしょうか。



山頂への道程



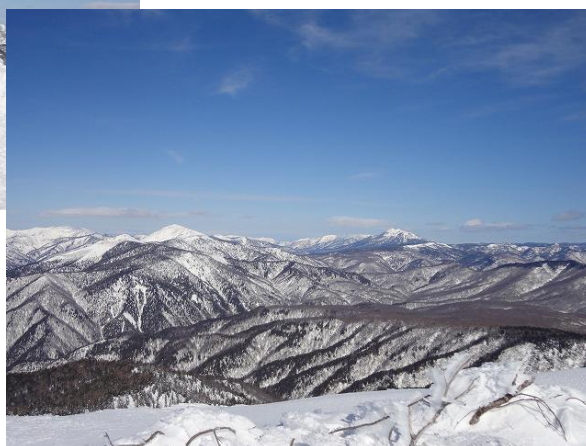
剣ヶ峰山を振り返る

下りてくる登山者とすれ違いながら、山頂までもう少しの所で、一息休憩を入れる。紺青の青空と白銀の山容のコントラストが何とも素晴らしい。遠くでヒュッと動く人影。これは山スキーヤーだな。ところどころ、スキーで滑った跡がある。

上々の時間に武尊山山頂に到着。360°の大展望を拝めることができた。浅間山、谷川岳、白毛門、巻機山、平ヶ岳、至仏山、燧ヶ岳、日光白根山、皇海山、赤城

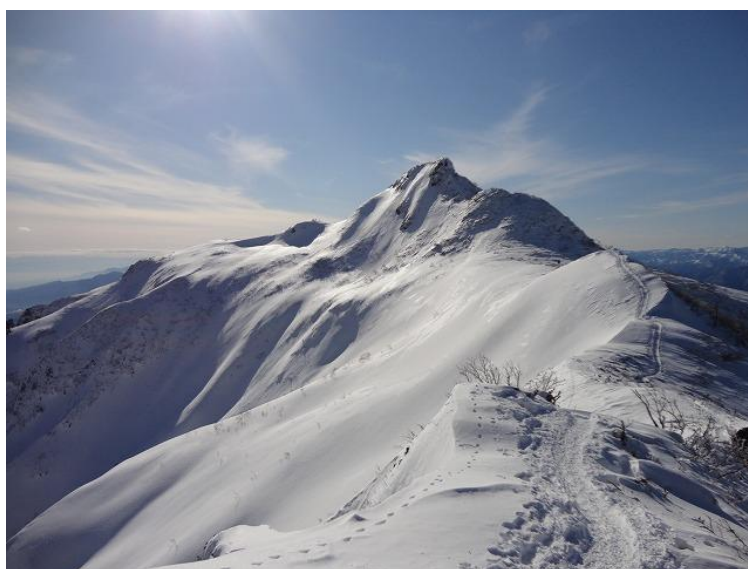
山 etc.. 知らない山も沢山見えていることでしょう。

いつまでも眺めていたい気分だったが、タイムリミットもあるし、寒くなってきたので適度に切り上げて戻ることにした。



尾瀬方面の山々

帰りは同じルートを進むが、太陽の位置が微妙に変わっているため、山々の表情が微妙に変わっていて、面白い。剣ヶ峰山も午前中とは表情が変わっているようだ。午後雪がフカフカだった。





剣ヶ峰山にて 2020サイン

無事、ゲレンデトップに到着し、FTさんと合流。お待たせしました。雪山を存分に楽しめたけど、無雪期とは違う緊張感が常にあったような……。帰りは温泉に立ち寄り、冷えた体を温めて帰宅となりました。

寒い思いをし、リスクを冒してまで雪山に行く価値はあるのだろうかと半信半疑であったが、今日のような快晴の元、凜として澄み切った雪山の景色は素晴らしく、良い経験ができた。

ご一緒したFTさん、TMさん、お世話になりました。

<<参考コースタイム>>

ゲレンデトップ出発	10:40
剣ヶ峰山	11:30
山頂到着	12:50
山頂出発	13:10
復路途中軽食休憩	10分位
剣ヶ峰山	14:20
ゲレンデトップ到着	14:45

(了)